



2021年2月1日

R&A/USGA研究トピックー関心のある分野

当初2020年3月に予定されていた研究トピックー関心のある分野の公表は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて2021年初頭まで先延ばしされていました。

2020年2月4日付の製造業者への電子メール（年次ドライビングディスタンスレポート（2019年）、ディスタンスインサイトレポート、ディスタンスインサイトプロジェクトからの結論：ゴルフにおける飛距離の影響（「結論文書」）を添付）のフォローアップとして、この告知では用具規則の変更の可能性に関する一連の研究トピックを明記しています。

結論文書で述べられているように、R&AとUSGAは用具の仕様に関連する下記の2つの分野を含むあらゆる選択肢を見直すつもりです：

1. 飛距離を減じる結果となることを意図したクラブおよび/またはボールの使用を特定することになるローカルルールの選択肢を使う可能性を私たちは評価します。この概念では、飛距離を減じた仕様の特定のセットに適った用具（例えば、遠くに飛ばないボールやボールを遠くに飛ばせないクラブ）が、規則に適合する用具という全体の区分の中における規定されたサブセットとなるかもしれないということです。このことは、ゴルフ競技を行う、あるいは個々のコースを所管する委員会が、ゴルフ規則に基づいて承認されたローカルルールによって、そうした飛距離を減じた用具を使用することを要求するかどうか、どのような場合に要求するのかが選択することを認めることができるようになり得ます。そうしたローカルルールの選択肢は、すべてのレベルのプレーで利用可能となり得ますし、競技会以外でプレーするゴルファーも自分たちでその選択肢を持つことが可能となります。
2. 私たちは飛距離に直接的/間接的の両方で影響する仕様を含め、クラブとボールの両方について全体的な適合性の仕様の見直しも行います。この見直しの本来の目的は、継続する飛距離の増加を和らげる支援のために既存の仕様を調整すべきなのか、新しい仕様を設けるべきなのかどうかを検討することです。現在、飛距離を大幅に減じさせることになるような方法でこのゲームのすべてのレベルで全体的な仕様の修正を検討するつもりはありません。

R&AとUSGAは、用具の仕様に関連する事柄を超えるその他の分野における研究を同時に行う一方で、こうした事柄を進めるために、幅広い技術レベルとスイングスピードにわたってドライビング距離を減じ、バッグの中のその他のクラブの飛距離を減じ、そして飛距離とその他の技量のバランスを向上させることにつながるクラブとボールの両方の仕様の変更の可能性を評価します。

クラブとボールの仕様に関して、私たちは下記を評価します：

- 標準総合距離（ODS）の上限を減じること。
- ボールの性能の制限を修正すること（初速（IV）を更新）。

- その他のボールの仕様（サイズ、重量）。
- ドライバーの性能を減じること：クラブの長さ、クラブヘッド寸法（体積を含む）。
- スプリング効果と慣性モーメントについてのクラブヘッドの仕様を変更し、回転半径の利用の制限も検討すること。
- コースのすべてのエリアにおけるすべてのクラブのスピン発生量。

飛距離を減じる結果となることおよび/または飛距離とその他の技量のバランスを強化することを意図した適合クラブおよび/または適合ボールの所定のサブセットの使用を規定するローカルルールの使用の可能性も私たちは評価します。この概念では、委員会やゴルフ施設はこうした仕様やそのサブセットに適う用具の使用を要求する選択肢を有するという事です。私たちはこの概念について、そして上記に挙げた研究トピックがローカルルールとしての使用のためにどのように検討され得るのか、製造業者や利害関係者からのフィードバックを求めています。

結論

この告知文で議論された研究トピックは「関心のある分野」のみです。可能性のある解決策についていかなる決定も行われてはおらず、現時点ではいかなる提案も出されていません。この研究から生じる可能性があるどのような規則変更案も「用具規則制定過程」にしたがって事前に連絡されます。

私たちはあなたがこの研究に参加することを歓迎し、あなたがデータや見解を共有してくれることを願います。すべての情報は2020年11月2日までに提出されることを私たちは要請します。そうした連絡はR&Aスティーブ・オットー教授（equipmentstandards@randa.org）までメールでお寄せください。